



通信事業者の切り札！IMS 欧州を中心に加速する本格導入

IMS(IP Multimedia Subsystem)は、音声とマルチメディアサービスを統合した一元的なサービスプラットフォームを構築するためのコンセプトだ。従来事業者ごとに開発していた各種サービスが、IMSという共通基盤を得ることによって、事業者はより低コストに、よりスピーディーに、数多くのサービスを提供できるようになる。jNetX、アジアパシフィック担当ディレクターのマイケル・ロス氏が、IMSの及ぼすメリットと最新動向を解説する。

現在、IMS(IP Multimedia Subsystem)は、多くの通信事業者や通信サービスプロバイダーにとって直接関係する事柄であり、テレコム業界で最もよく話されるトピックのひとつである。しかし、「IMSとは正しくどのようなものか」という理解には、まだ多くの混乱があることも現実だろう。

IMSはモバイルネットワークを通じ、IPプロトコルによるテレコムコミュニケーションサービスを提供するフレームワークだ。IMSは移動体系通信事業者とサービスプロバイダーに、音声とマルチメディア通信を統合した、新しい可能性を新しい環境で運用するサービス展開の機会を提供するもの。このアーキテクチャは従来の電話サービスとそれ以外のサービス、例えばプッシュアウトトークやインスタントメッセージ、ビデオストリーミング、マルチメディアメッセージなどに対応できる。

GSM市場に向け、携帯電話の標準化団体である3GPPは、IMSを2つのフェーズ、UMTS(ユニバーサル・モバイル・テレコムコミュニケーション・システム)のためのリリース5とリリース6で規定している。

またIMSは、3GPP2の第3世代CDMAネットワークでの利用も、MMD(マルチメディア・ドメイン)の名称で考

慮されている。MMDにおいては、IMSとMMDのサービスが、UMTSと第3世代CDMAの両方のネットワークで相互運用できるように協調がとられている。

IMSでは次のようなネットワークとユーザーニーズを想定している。

- ・リアルタイムなPerson-to-Person(PtoP)のIPベースのマルチメディアコミュニケーションと、Person-to-Serverコミュニケーションの実現
- ・リアルタイムとリアルタイムでない、マルチメディアコミュニケーションの統合
- ・異なるサービスやアプリケーション間の連携
- ・シングルセッションまたは同期された複数の同時セッションでの、複数サービスのセットアップを実現するセッションコントロール

事業者の課題解決の切り札 新たなマルチメディアサービスを

世界中の通信事業者はARPUの低下に直面している。音声サービスがコモディティ化される一方、サービスプロバイダーや大企業には格安レートがパッケージ